

2012 年度
関西福祉科学大学大学院
社会福祉学研究科
心理臨床学専攻

修士論文題目

大学生の友人関係におけるルールと親密さについて

指導教員（ 鎌田 次郎 ）

社会福祉学研究科心理臨床学専攻

学生番号 21161001 氏名 尾濱 沙織

目次

第1章 序論

1.はじめに	1
2.大学生における友人関係とは	1
3.人間関係におけるルールとは	2
4.親密さについて	2
5.親友と友人	2
6.目的	3

第2章 方法

1.調査時期	4
2.調査協力者	4
3.質問紙	4
4.実施手順	4
5.分析方法	4
6.倫理的配慮	5

第3章 結果

1.各尺度の因子分析	6
(1)友人関係の親密さ尺度・親友	6
(2)友人関係の親密さ尺度・友人	8
(3)友人関係のルール尺度・親友	10
(4)友人関係のルール尺度・友人	12
2.各得点の差の検定	14
(1)親友と友人での友人関係の親密さ得点の差異	14
(2)親友の有無による友人関係の親密さ各因子得点の差異	14
(3)親友の有無による友人関係のルール各因子得点の差異	14
(4)性による友人関係の親密さ得点，友人関係のルール得点の差異	14
(5)性による友人関係の親密さ， 友人関係のルールの各因子における差	14
3.友人関係の親密さに対するルール要因の重回帰分析	15
(1)親友に対する場合	15
(2)友人に対する場合	17
4.男女別での重回帰分析	19
(1)親友に対する男性の場合	19
(2)友人に対する男性の場合	21
(3)親友に対する女性の場合	23
(4)友人に対する女性の場合	25

第4章 考察

1. 各尺度の因子分析	27
(1) 友人関係の親密さ尺度の因子について	27
(2) 友人関係のルール尺度の因子について	27
2. 各得点の差の検定	28
(1) 親友と友人での友人関係の親密さ得点の差異	28
(2) 親友の有無での親密さ, ルールの差異	28
(3) 性による親密さ, ルールの差異	28
(4) 性差での各因子における親密さ, ルールの差異	28
3. 友人関係の親密さに対するルール要因の重回帰分析	29
(1) 親友に対する場合	29
(2) 友人に対する場合	30
(3) 親友に対する場合と友人に対する場合の比較	30
4. 男女別での重回帰分析	31
(1) 親友に対する男性の場合	31
(2) 友人に対する男性の場合	31
(3) 男性における親友に対する場合と友人に対する場合の比較	32
(4) 親友に対する女性の場合	32
(5) 友人に対する女性の場合	33
(6) 女性における親友に対する場合と友人に対する場合の比較	34
5. 総合考察	34
6. 今後の課題	35

文献 引用文献・参考文献

付録 資料

大学生の友人関係におけるルールと親密さについて

尾濱 沙織

関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科 心理臨床学専攻

【問題と目的】

近年、大学生における友人関係の特徴として、希薄化が問題視されている。のぞましい対人関係を作るために社会性が重要となることが考えられる。人間関係のルールを知ること、人間関係における効果的なスキルを知ることができるだろう。人間関係のルールは、人間関係の中にいる人々の行動に指針を与え、どんな行動が期待されているのか明らかにする働きがあり、ルールを明らかにすることで、問題が起こった際も指標とし、修正することができる。

そこで本研究では、大学生の友人関係について、友人関係の親密さ尺度を作成し、友人、親友それぞれに対してどの程度親密な関わりをしているのか、差異が見られるかを調査する。また、友人関係のルール尺度を作成し、友人に対する場合と親友に対する場合では異なるルールで統制されていると予測し、どのような関わりやルールがあるのか、どのようなルールが親密さに影響するのかを明らかにする。

【方法】

調査期間：2012年6月～2012年7月

調査協力者：関西にある3つの大学に通う大学生を対象に実施した。男性138人、女性235人で平均年齢は19.9歳(SD=2.38)であった。

質問紙：①友人関係の親密さ尺度は、親子関係の親密さ尺度(小高, 1998)を参考に検討し、20項目5件法で構成されるものを新たに作成した。②友人関係のルール尺度は、ルールに関する43項目の尺度(Argyle & Henderson, 1984)から、Argyle & Henderson(1984)の研究で同性の友人に対して有効とされる21項目を使用し、畠山(2003)の和訳を参考に検討し、修正した21項目5件法で構成されるものを使用した。

【結果と考察】

友人関係の親密さは、友人より親友の方が当然高かったが、それだけでなく、親密さの因子も異なり、親友と友人とでは異なる親密さが存在する。「受容の期待」因子に関しては、親友、友人共通の因子であり、受け入れられたいという気持ちを友人関係において持つと考えられる。また、男性よりも女性の方が親密さが高い点は先行研究と一致した。

友人関係のルールは、親友と友人では因子が異なることから、異なるルールで統制されていると考えられる。また、男性よりも女性の方が得点が高いことから、男性よりも女性の方がルールを強く守ろうとすると考えられる。

友人関係の親密さに友人関係のルールが及ぼす影響として、ほとんどの親密さの因子に対して、相手への気遣いを示すこと、相手のために行動すること、自己開示し、線引きをしないことなど相手のことを考えての積極的な関わりが親密さを高めると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に関しては、その他の友人関係の親密さ因子に対するルールと比較して、相手のために気遣いや行動しないという特徴がみられた。この特徴については、本研究においては明言できないが、自分からは何もせず、相手に受け入れを期待するような点から甘えと捉えられるのではないかと考える。甘えと友人関係については、良好な友人関係の構築に、甘えが役立つことが明らかにされている(玉瀬・富平, 2007)。なお、「受容の期待」因子に対して、自己開示しないことが影響していたが、他者との適度な心理的距離を巡る葛藤である、ヤマアラシジレンマのような複雑な感情を抱いている可能性も考えられる。

第 1 章 序論

1.はじめに

近年，大学生における友人関係の特徴については，友人と深く関わることを避け，互いに傷つからないように深入りせず，浅い友人関係を築こうとする，対人関係の希薄化が問題視されている。高井(2008)は，青年期における人間関係の悩みに関する研究を通して，「ありのままの自己」が出せないことが悩みの 1 つに挙がっており，そこには，安心してありのままの自己を出せるほどの関係性や信頼関係がないことが推察されるところとしている。また，携帯電話使用の増加やパソコンなどの OA 機器に向かう時間が増加したことにより，オフラインの現実生活や人間関係での関心・意欲が乏しくなるという精神疾患であるテクノストレス(テクノ依存症・テクノ不安症)も希薄化の要因の 1 つとして考えられている。日本は相互協調的な自己感を有する精神文化が存在し，人間関係の希薄化の 1 つの象徴と考えられる。

加えて，いじめが問題となっており，前述したように携帯電話使用の増加等により，「ネット上のいじめ」のように新しい形のいじめ問題も生じ，多様化・深刻化している。いじめの要因の 1 つとして，前述したような友人関係の希薄化があげられている。真仁田・小玉・沢崎(2003)は，悪いと判断ができることと，行動化する際にそれを判断基準として用いるかが別であることこそ，「社会的絆の弱まりであり，社会的コントロールの欠如によるいじめ発生の理解」につながるとしている。また，彼らは「社会的絆の弱さは個人と個人，対人関係の弱さでもある。」とし，「子どもたちがいかに円滑でのぞましい対人関係をつくり社会性を育てられるのかは，いじめ対応と予防における重要な問題である。」と述べており，のぞましい対人関係を作るために社会性が重要となることが考えられる。人間関係をうまくやっていくには，その関係を円滑に行う正しい方法(ルール)を持っていなければならない(吉森，1992)。人間関係のルールを知ること，人間関係における効果的なスキルを知ることができるだろう。

2.大学生における友人関係とは

Erickson,E,H.の心理社会的発達理論では取り上げられていない友人関係，とくに同性の友人関係が日本社会における青年を理解するための鍵概念となっていると考えられる(星名，2000)。大学生における友人は，それまでよりも意味のある重要な存在となる。第 2 次性徴や認知的発達により，親からの心理的自立が進み，不安感や孤独感を抱えるようになり，これらを支え，慰め，励ます存在が友人となる。友人は大人社会に対する不満や葛藤を共感し，時として秘密を告白し，自己を理解してくれる存在である(真仁・小玉・沢崎，2003)。大学生における親密な友人関係について，渡辺(2010)の友人関係を親密化させる

過程の研究によると、「学科のカリキュラム」や「サークル・部活動」等の経験の共有を通して相互に影響しあいながら親密化していく過程が確認されており、大学生活の中での人間関係が親密な友人関係を築くために重要であるといえる。

友人関係を性により比較してみると、男性よりも女性の友人関係の方が情緒的であり(和田・林, 2008)、深いレベルの自己開示や愛着や援助を伴う親密で信頼のおける関係に価値をおいているという(吉森, 1992)。

3. 親密性について

本論においては友人関係における親密性という概念をとりあげる。友人関係において、「浅いー深い」や「狭いー広い」などの検討はされているが、親密性に重点をおいての研究は少ない。親密性について検討されてきた親子関係の尺度より、友人関係にも共通すると考えられる項目を参考に、友人関係の親密さについて検討する。

4. 友人と親友

新明解国語辞典第二版(1974)では、友人は「ともだちの漢語的表現」とされ、ともだちは「一緒に何かをしたり遊んだりして、親しくつきあっている人。」、親友は「小さい時は常に行動を共にし、長じては何事も打ち明けることの出来る友人。」と位置づけられているが、親密さの量的な差異は、やはり心理学的研究を待たねばならず、曖昧である。先行研究では、親友と友人の区別を量的に行うものが多いが、区別の方法は人それぞれ異なることが考えられる。そこで、本研究では友人と親友については調査協力者の判断に委ねることとする。

5. 人間関係におけるルール

吉森(1992)は、「ルールとは、人々がすべきであるとかすべきでないと信じている行動の規則であり、ほとんどの社会行動はルールによって支配されている。法律のように、成文化され公式的に認められているものもあれば、非公式なものもある。非公式ルールは、法的な罰則を伴わないが、社会的規範としての働きをしている。」と述べている。人間関係においても人々が自分の人間関係の中に自分の個人的ルールを持ち込んでいるが、人間関係自体もまた、公式あるいは非公式のルールや契約を持っている(相川, 1993)。人間関係のルールについて吉森(1992)は、「色々な人間関係や状況の目標を達成するために、人間はルールを発達させてきた。」としている。このルールが守られない場合、人間関係はうまくいかない。また、人間関係のルールは、人間関係の中にいる人々の行動に指針を与え、どんな行動が期待されているのか明らかにする働きがあり、ルールを明らかにすることで、問題が起こった際も指標とし、修正することができる。

友人関係におけるルールについて、Argyle & Henderson(1984)によれば、相手への援助、相手の精神的な支えになる、相手の友人関係を妬まない、相手の

プライバシーは尊重するなどのルールがあるとされている。吉森(1992)によると、友人関係が壊れるきっかけとして、男性と女性に大きな違いはないが、女性の方が積極的な関心を示さないことや情緒的な支えとならないことが友人関係の崩壊の原因となるようである。」といわれている。また、大学生の友人関係におけるルールは言語的に明確に取り決めるという形でルールを適用することは少なく、暗黙のうちにルールが適用されている場合が多く(藤田, 1997), 明確化されていないルールを明らかにすることで、友人関係を築く手がかりになると考えられる。

6.目的

そこで本研究では、希薄化が問題視されている大学生の友人関係について、友人関係の親密さ尺度を作成し、友人、親友それぞれに対してどの程度親密な関わりをしているのか、差異が見られるかを調査する。また、友人関係のルール尺度を作成し、友人に対する場合と親友に対する場合では異なるルールで統制されていると予測し、どのような関わりやルールがあるのか、どのようなルールが親密さに影響するのかを明らかにする。

第 2 章 方法

1. 調査時期

2012 年 6 月から 2012 年 7 月にかけて、講義時間を利用して調査を行った。

2. 調査協力者

関西にある 3 つの大学に通う大学生男女約 700 人を対象に実施し、有効回答者数は、男性 138 人、女性 235 人で平均年齢は 19.9 歳 ($SD=2.38$) であった。

3. 質問紙

① 友人関係の親密さ尺度は、親子関係の親密さ尺度(小高, 1998)を参考に大学院教授指導のもと、大学院生数名で検討し、20 項目 5 件法で構成されるものを新たに作成した。

② 友人関係のルール尺度は、ルールに関する 43 項目の尺度(Argyle & Henderson, 1984)から、Argyle & Henderson(1984)の研究で同性の友人に対して有効とされる 21 項目を使用し、畠山(2003)の和訳を参考に大学院教授指導のもと、大学院生数名で検討し、修正した 21 項目 5 件法で構成されるものを使用した。得点が高ければ、そのルールを強く守っているとみなされる。

4. 実施手順

まず、性別、年齢、所属学科の記入を求めた。そして、親友の有無を問い、親友有りと回答した被験者には、特定の親友を思い浮かべながら回答させるために、親友だと感じる相手 1 人のイニシャルの記入を求め、友人関係の親密さ尺度、友人関係のルール尺度に回答させた。次に、友人の有無を問い、同様に友人有りと回答した被験者には、特定の友人を思い浮かべながら回答させるために、友人だと感じる相手 1 人のイニシャルの記入を求め、友人関係の親密さ尺度、友人関係のルール尺度に回答させた。この時、友人関係の中で親友と友人を差別化するために親友について先に回答を求めた。

5. 分析方法

- ① 両尺度の構造を検討するために因子分析を行った。
- ② 親友と友人での親密さの差異を検討するために t 検定を行った。
- ③ 親友の有無で友人関係のルール、友人関係の親密さに差異があるかを検討するために t 検定を行った。
- ④ 性の違いにより友人関係のルール、親密さに差異があるかを検討するために t 検定を行った。
- ⑤ 友人関係のルール尺度の各因子が友人関係の親密さの各因子に与える影響を検討するために、友人関係の親密さ尺度の各因子を目的変数とし、それぞれに

対して友人関係のルール尺度因子を説明変数として重回帰分析を行った。

⑥男性、女性それぞれにおいて、友人関係のルール尺度の各因子が友人関係の親密さの各因子に与える影響を検討するために、友人関係の親密さ尺度の各因子を目的変数とし、それぞれに対して友人関係のルール尺度を説明変数として重回帰分析を行った。

6.倫理的配慮

個人情報保護としては、調査用紙は無記名とし、入力後は個人を特定可能な情報(年齢、性別)はコード化して取り扱った。また、質問紙とデータは、関西福祉科学大学大学院研究室にて、施錠のできるロッカーに保管・管理し、USBメモリでデータを移動する場合には、USBメモリ全体にパスワードを付与した。ネット回線につないだままでデータの解析を行わないなど、ウイルスによるデータの流出がないようにした。

個々の回答者は、研究への参加は任意であり、調査への同意を得るために「同意出来ない場合は白紙で提出してください」と調査時に口頭で回答者に伝えた。

なお、本研究は 2012 年度関西福祉科学大学研究倫理委員会の承認を得ている。

第 3 章 結果

1. 各尺度の因子分析

友人関係の親密さ尺度の項目，友人関係のルール尺度の項目がどのような構造になっているのかを検討するため，両尺度の親友，友人それぞれについて因子分析を行った。

(1) 友人関係の親密さ尺度・親友

友人関係の親密さ尺度 20 項目について親友に対する回答データをもとに主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った。因子の解釈可能性を考慮し，4 因子を抽出し負荷量.40 の項目を除外した(Table1)。

第 1 因子は，「その相手と心がつながっている」「喜び，悲しみなどの感情をその相手と共有する」など，心のつながりを維持しようとする内容を示す 6 項目で構成されているため，「絆の維持」因子と命名した。

第 2 因子は，「その相手は，私が何をしても最後はわかってくれる」「私が何をしてもその相手は，最後は許してくれる」など，理解を求める内容の 3 項目で構成されているため，「理解の期待」因子と命名した。

第 3 因子は，「互いに何も言わなくても，互いの気持ちを察している」「その相手はいちいち言わなくても私の気持ちをわかってくれる」の通り，相手の気持ちを察するような内容の 2 項目で構成されているため，「暗黙の了解」因子と命名した。

第 4 因子は，「嫌なことがあると，その相手にあたってしまう」「すべてを言わないと，その相手がわかってくれない場合イライラする」の通り，気持ちの受け入れを求める内容の 2 項目で構成されているため，「受容の期待」と命名した。

内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ，「絆の維持」因子では.75，「理解の期待」因子では.66，「暗黙の了解」因子では.75，「受容の期待」因子では.65 であった。

Table1 友人関係の親密さ尺度・親友

	絆の維持	理解の期待	暗黙の了解	受容の期待
4. その相手と心がつながっている	. 647	. 199	. 309	. 014
1. 喜び, 悲しみなどの感情をその相手と共有する	. 606	. 138	. 163	. 002
5. その相手を尊敬している	. 595	-. 015	. 047	-. 144
2. 欠点も含めて, その相手は私のことを受け入れ許してくれる	. 585	. 306	. 047	-. 084
11. その相手に頼りにされたい	. 453	. 187	. 167	. 037
7. 互いに刺激しあって人間性を高めあう	. 423	. 065	. 117	-. 091
13. その相手は, 私が何をしても最後はわかってくれる	. 149	. 683	. 220	-. 091
16. 私が何をしてもその相手は, 最後は許してくれる	. 204	. 552	. 072	. 217
14. その相手が考えていることがだいたいわかる	. 134	. 515	. 386	-. 052
9. 互いに何も言わなくても, 互いの気持ちを察している	. 333	. 200	. 762	. 036
10. その相手は, いちいち言わなくても私の気持ちをわかってくれる	. 255	. 386	. 606	-. 077
18. 嫌なことがあると, その相手にあたってしまう	-. 079	. 073	. 026	. 779
19. すべてを言わないと, その相手がわかってくれない場合イライラする	-. 088	-. 034	-. 047	. 633

(2)友人関係の親密さ尺度・友人

友人関係の親密さ尺度 20 項目について友人に対する回答データをもとに主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った。因子の解釈可能性を考慮し、負荷量.40 の項目を除外し、5 因子を抽出した(Table2)。

第 1 因子は、「互いに何も言わなくても、互いの気持ちを察している」「その相手と心がつながっている」など、相手の気持ちを察して共有する 4 項目で構成されているため、「気持ちの共有」因子と命名した。

第 2 因子は、「その相手は、私が何をしても最後はわかってくれる」「私が何をしてもその相手は、最後は許してくれる」など、互いに理解を求める内容の 4 項目で構成されているため、「理解の期待」因子と命名した。

第 3 因子は、「嫌なことがあると、その相手にあたってしまう」「すべてを言わないと、その相手がわかってくれない場合イライラする」など、気持ちの受け入れを求める内容の 3 項目で構成されているため、「受容の期待」因子と命名した。

第 4 因子は、「その相手を尊敬している」「その相手に非難されると、とても気になる」など、相手との関係性を保とうとする内容の 3 項目で構成されているため、「関係の維持」因子と命名した。

内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「気持ちの共有」因子では.73,「理解の期待」因子では.77,「受容の期待」因子では.69,「関係の維持」因子では.57 であった。

Table2 友人関係の親密さ尺度・友人

	気持ちの共有	理解の期待	受容の期待	関係の維持
9. 互いに何も言わなくても、互いの気持ちを察している	.637	.362	.179	.029
4. その相手と心がつながっている	.630	.292	.085	.107
6. その相手と多くの時間を共有する	.561	.110	.074	.228
7. 互いに刺激しあって人間性を高めあう	.493	.136	.042	.428
1. 喜び、悲しみなどの感情をその相手と共有する	.436	.223	-.106	.408
13. その相手は、私が何をしても最後はわかってくれる	.280	.731	.141	.116
16. 私が何をしてもその相手は、最後は許してくれる	.149	.719	.149	.139
2. 欠点も含めて、その相手は私のことを受け入れ許してくれる	.352	.547	-.038	.244
14. その相手が考えていることがだいたいわかる	.396	.427	.281	-.009
18. 嫌なことがあると、その相手にあたってしまう	.126	.117	.766	.034
19. すべてを言わないと、その相手がわかってくれない場合イライラする	.008	-.020	.713	.146
20. その相手に向かって、直接批判的なことを言う	.053	.135	.495	-.090
5. その相手を尊敬している	.336	.166	-.116	.586
17. その相手に非難されると、とても気になる	.002	.007	.120	.532
15. その相手が困っていたら、頼まれなくても積極的に助けようとする	.200	.322	-.001	.427

(3)友人関係のルール尺度・親友

友人関係のルール尺度 21 項目について親友に対する回答データをもとに主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った。因子の解釈可能性を考慮し、負荷量.40 の項目を除外し、4 因子を抽出した(Table3)。

第 1 因子は、「必要なときは、その相手を進んで手助けすべきだ」「その相手が病気のときは、世話をすべきだ」など、相手を助けようとする内容の 7 項目から構成されているため、「援助」因子と命名した。

第 2 因子は、「その相手と秘密を話し合わないほうが良い」「その相手には個人的な気持ちは打ち明けるべきでない」など、相手に対する言葉や行動を慎む内容の 4 項目で構成されているため、「遠慮」因子と命名した。

第 3 因子は、「その相手のプライバシーは尊重すべきだ」「その相手と成功の知らせを分かち合う」など、相手へ心づかいする内容の 3 項目で構成されているため、「配慮」因子と命名した。

第 4 因子は、「公衆の面前でその相手を批判すべきでない」「その相手がいないとき、代わりにその相手を擁護するほうが良い」の通り、相手を守るような内容の 2 項目で構成されているため、「擁護」因子と命名した。

内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「援助」因子では.76, 「遠慮」因子では.72, 「配慮」因子では.68, 「擁護」因子では.51 であった。

Table3 友人関係のルール尺度・親友

	援助	遠慮	配慮	擁護
19. 必要なときは、その相手を進んで手助けすべきだ	. 629	-. 364	. 272	. 062
16. お互いの友人に対して寛容であるべきだ	. 583	-. 144	. 075	-. 017
15. その相手が病気のときは、世話をすべきだ	. 578	-. 052	. 093	. 070
8. たとえ、どれほど小さい親切や褒め言葉であっても、その相手にお返しをするように努める	. 479	. 033	. 146	. 303
18. お互いに信用し、信頼するべきだ	. 467	-. 186	. 207	-. 027
21. 一緒にいる間は、その相手が楽しめるように努める	. 465	. 020	. 151	. 116
13. その相手の精神的な支えになる	. 409	-. 232	. 335	. 115
6. その相手と秘密を話し合わないほうが良い	-. 114	. 711	-. 006	-. 056
2. その相手には個人的な気持ちは打ち明けるべきでない	-. 115	. 699	-. 087	-. 113
3. その相手に個人的なアドバイスを頼むべきでない	-. 215	. 612	-. 212	-. 014
9. その相手に冗談やからかいをするべきでない	. 018	. 491	-. 075	. 200
11. その相手のプライバシーは尊重するべきだ	. 261	-. 135	. 750	. 022
10. その相手と成功の知らせを分かち合う	. 305	-. 227	. 460	. 235
12. 会話をしているときは、その相手の目を見るべきだ	. 361	-. 045	. 427	. 267
4. 公衆の面前でその相手を批判すべきでない	. 111	. 060	. 064	. 612
5. その相手がいなくて、代わりにその相手を擁護するほうが良い	. 031	-. 043	. 070	. 510

(4)友人関係のルール尺度・友人

友人関係のルール尺度 21 項目について友人に対する回答データをもとに主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った。因子の解釈可能性を考慮し、負荷量.40 の項目を除外し、4 因子を抽出した(Table4)。

第 1 因子は「その相手の精神的な支えになる」「お互いに信用し、信頼するべきだ」など、相手の心情へ心を配るような内容の 10 項目で構成されているため、「思いやり」因子と命名した。

第 2 因子は、「その相手に個人的なアドバイスを頼むべきでない」「その相手には個人的な気持ちは打ち明けるべきでない」など、自己開示を避けるような内容の 3 項目で構成されているため、「非自己開示」因子と命名した。

第 3 因子は、「公衆の前でその相手と言い争いをすべきでない」「公衆の面前でその相手を批判すべきでない」など、相手との争いを避けるような内容の 3 項目で構成されているため、「衝突回避」因子と命名した。

第 4 因子は、「その相手のプライバシーは尊重するべきだ」「その相手と性的な関係をもつべきでない」の通り、相手と一定の距離を保とうとする内容の 2 項目で構成されているため、「線引き」因子と命名した。

内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「思いやり」因子では.84, 「非自己開示」因子では.78, 「衝突回避」因子では.62, 「線引き」因子では.35 であった。

Table4 友人関係のルール尺度・友人

	思いやり	非自己開示	衝突回避	線引き
13. その相手の精神的な支えになる	.707	-.113	.036	-.048
18. お互いに信用し, 信頼するべきだ	.695	-.119	.153	.131
19. 必要なときは, その相手を進んで手助けすべきだ	.652	-.149	.104	.258
15. その相手が病気のときは, 世話をすべきだ	.615	-.104	.067	-.215
21. 一緒にいる間は, その相手が楽しめるように努める	.610	-.051	.162	.231
10. その相手と成功の知らせを分かち合う	.565	-.238	.007	.288
8. たとえ, どれほど小さい親切や褒め言葉であっても, その相手にお返しをするように努める	.500	-.019	.141	.325
12. 会話をしているときは, その相手の目をみるべきだ	.494	-.040	.106	.245
16. お互いの友人に対して寛容であるべきだ	.456	-.175	.183	.326
1. その相手は名によって呼ぶべきだ	.417	.107	.075	-.056
3. その相手に個人的なアドバイスを頼むべきでない	-.142	.806	.048	-.013
2. その相手には個人的な気持ちは打ち明けるべきでない	-.054	.733	.087	-.049
6. その相手と秘密を話し合わないほうが良い	-.116	.647	.059	.045
17. 公衆の前でその相手と言い争いをすべきでない	.152	.001	.871	.178
4. 公衆の面前でその相手を批判すべきでない	.099	.101	.431	.351
14. その相手に小言を言うべきでない	.225	.231	.415	-.036
11. その相手のプライバシーは尊重するべきだ	.358	-.185	.127	.481
7. その相手と性的な関係をもつべきでない	.006	.055	.064	.471

2.各得点の差の検定

(1)親友と友人での友人関係の親密さ得点の差異

親友と友人で友人関係の親密さに違いがあるのかを検討するために、友人関係の親密さ尺度の合計得点について t 検定を行ったところ、 $t=9.13(df=266, p<.01)$ となり、友人よりも親友の方が有意に高い得点を示していた。

(2)親友の有無による友人関係の親密さ各因子得点の差異

親友の有無により、各因子において友人関係の親密さに違いがあるのかを検討するために、友人関係の親密さ尺度(友人)の合計得点について t 検定を行ったところ、 $t=1.75(df=332, n.s.)$ となり、親友ありと答えた群と親友無しと答えた群の得点差は有意ではなかった。

(3)親友の有無による友人関係のルール各因子得点の差異

親友の有無でルールに違いがあるのかを検討するために、友人関係のルール尺度(友人)の合計得点について t 検定を行ったところ、 $t=1.15(df=332, n.s.)$ となり、親友ありと答えた群と親友無しと答えた群の得点差は有意ではなかった。

(4)性による友人関係の親密さ得点、友人関係のルール得点の差異

性の違いにより友人関係の親密さに違いがあるかを検討するために、友人関係の親密さ尺度(親友・友人)の合計得点について t 検定を行ったところ、親友に対する場合は $t=-5.56(df=292, p<.01)$ 、友人に対する場合は $t=-3.88(df=332, p<.01)$ となり、どちらに対しても男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。

性により友人関係の親密さに違いがあるかを検討するために、友人関係のルール尺度(親友・友人)の合計得点について t 検定を行ったところ、親友に対する場合は $t=2.89(df=373, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。友人に対する場合は $t=1.19(df=332, n.s.)$ となり、男性、女性での得点差は有意ではなかった。

(5)性による友人関係の親密さ、友人関係のルールの各因子得点における差

性により、友人関係の親密さの各因子において違いがあるかを検討するために、友人関係の親密さ尺度(親友・友人)の各因子の得点について t 検定を行った。

友人関係の親密さ尺度(親友)では、「絆の維持」因子の得点については、 $t=-4.74(df=291, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。「理解の期待」因子の得点については、 $t=-3.68(df=291, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。「暗黙の了解」因子の得点については、 $t=-3.81(df=291, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。「受容の期待」因子の得点については、男性と女性の得点差

は有意ではなかった。

友人関係の親密さ尺度(友人)では、「気持ちの共有」因子の得点については、 $t=-2.97(df=331, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。「関係の維持」因子の得点については、 $t=-3.93(df=331, p<.01)$ となり、男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。

「理解の期待」因子、「受容の期待」因子の得点については、男性と女性の得点差は有意ではなかった。

3. 友人関係の親密さに対するルール要因の重回帰分析

友人関係のルール尺度の各因子が友人関係の親密さの各因子に与える影響を検討するために、想起相手が親友、友人それぞれのデータについて重回帰分析を行った。

(1) 親友に対する場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子($R^2=.337$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.379(p<.001)$ 、「遠慮」因子は $\beta=-.113(p<.05)$ 、「配慮」因子は $\beta=.224(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「擁護」因子は友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対する影響を確認できなかった($\beta=-.037, n.s., Fig.1$)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.186$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.429(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.033, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=-.017, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.008, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.1)。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子($R^2=.133$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.325(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.001, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=.071, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.099, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.1)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.112$)に対して友人関係のルール尺度「遠慮」因子は $\beta=.240(p<.001)$ 、「配慮」因子は $\beta=-.233(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「援助」因子($\beta=-.122, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.041, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.1)。

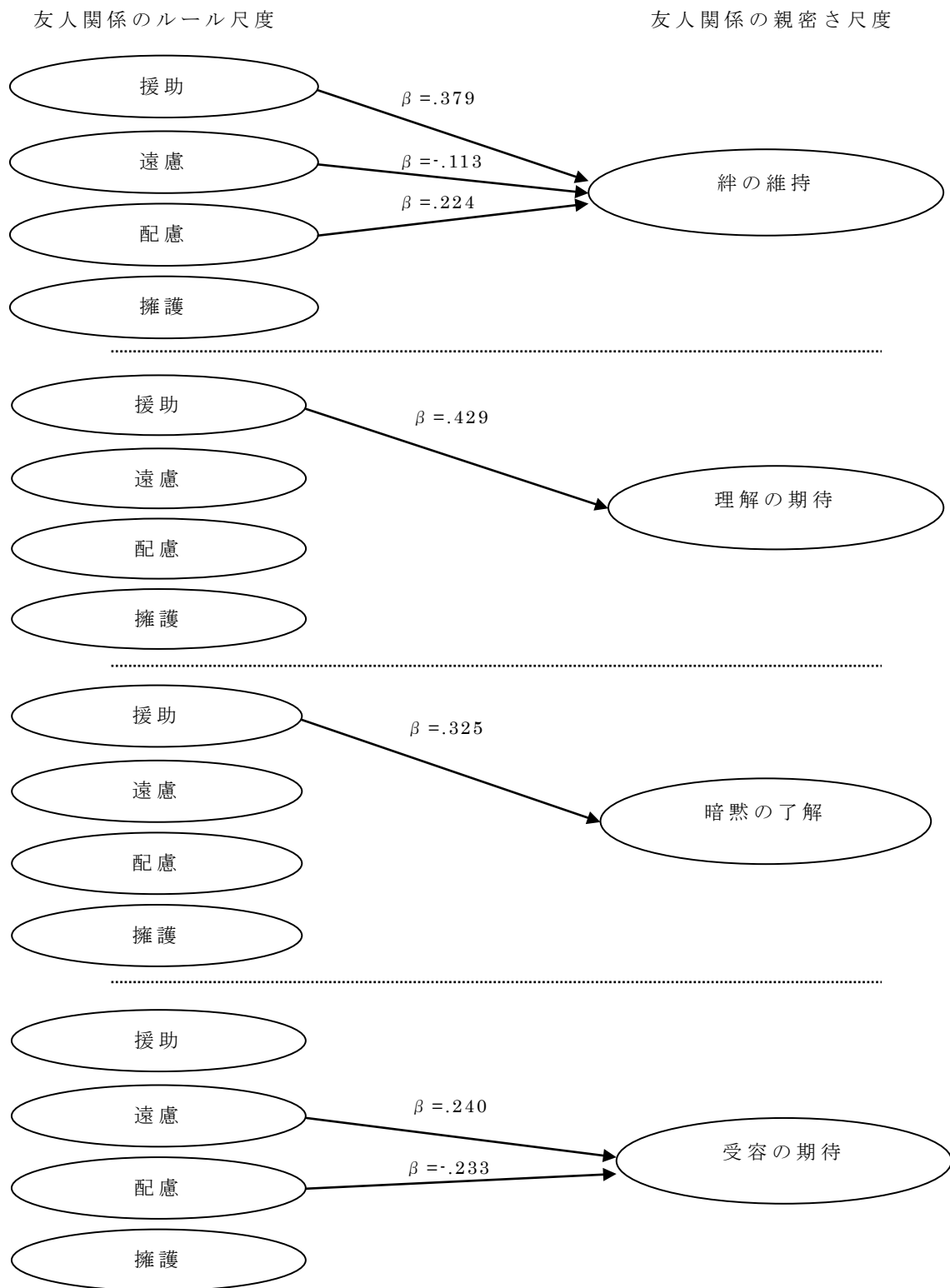


Fig.1 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(親友に対する場合)

(2)友人に対する場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子($R^2=.193$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .476(p<.001)$ 、「線引き」因子は $\beta = -.179(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「非自己開示」因子($\beta = -.006, n.s.$)、「衝突回避」因子($\beta = -.058, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.2)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.163$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .397(p<.001)$ 、「非自己開示」因子は $\beta = -.114(p<.05)$ 、「線引き」因子は $\beta = .132(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「衝突回避」因子($\beta = -.076, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.2)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.069$)であり、これに対して友人関係のルール尺度「非自己開示」因子は $\beta = .198(p<.001)$ 、「衝突回避」因子は $\beta = -.208(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「思いやり」因子($\beta = .116, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.084, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.2)。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子($R^2=.285$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .488(p<.001)$ 、「非自己開示」因子は $\beta = -.146(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「衝突回避」因子($\beta = .032, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.043, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.2)。

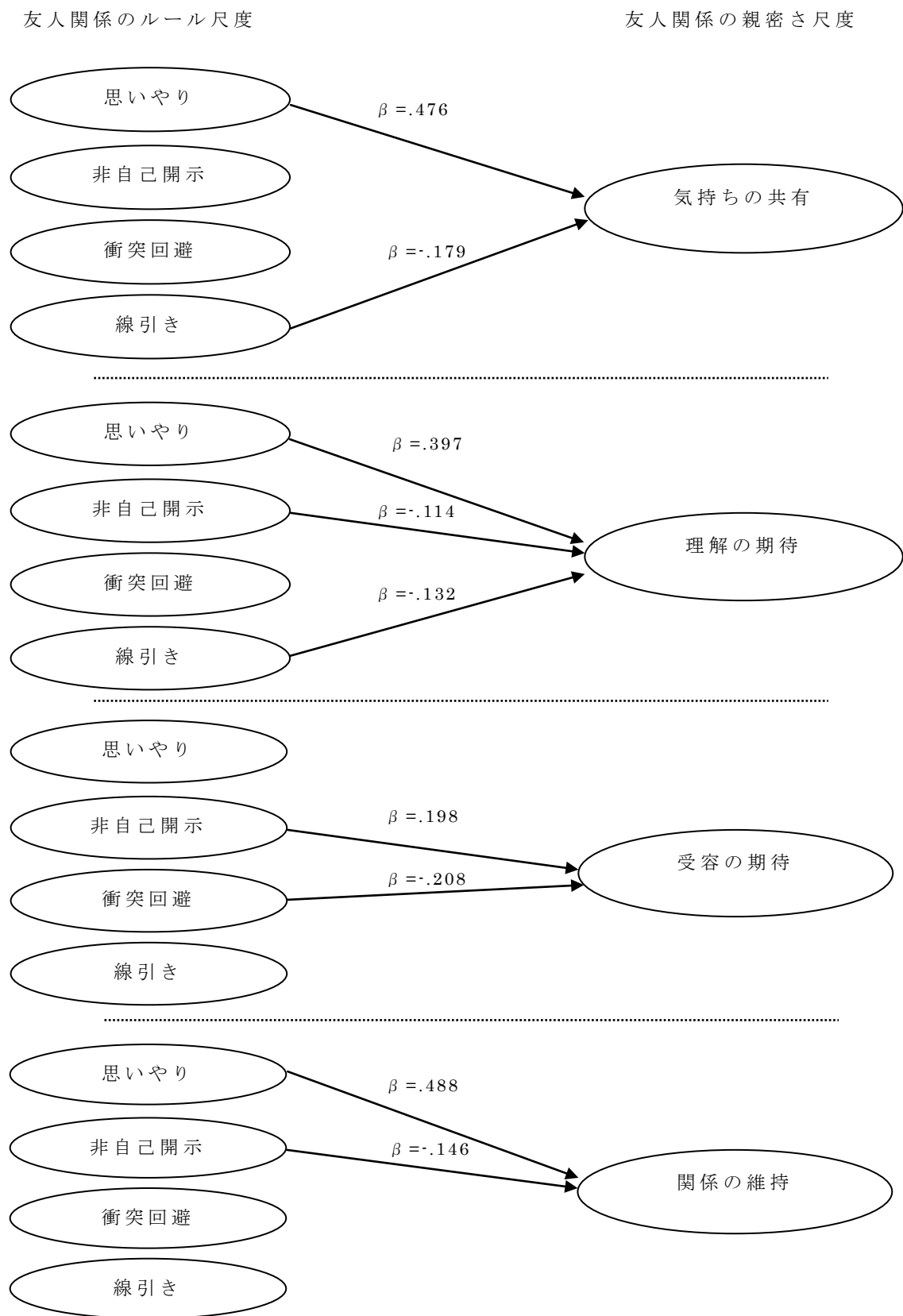


Fig.2 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(友人に対する場合)

4.男女別での重回帰分析

男性、女性それぞれにおいて、友人関係のルール尺度の各因子が友人関係の親密さに与える影響を検討するために、友人関係の親密さ尺度の各因子を目的変数とし、友人関係のルール尺度の各因子を説明変数として、友人を思い浮かべた場合、親友を思い浮かべた場合、それぞれについて重回帰分析を行った。

(1)親友に対する男性の場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子($R^2=.281$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.397(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.170, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=.094, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=.063, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.3)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.101$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.335(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.004, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=-.048, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.100, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.3)。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子($R^2=.103$)であり、これに対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.284(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=.051, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=.083, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.114, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.3)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.175$)に対して友人関係のルール尺度「遠慮」因子は $\beta=.355(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「援助」因子($\beta=.237, n.s.$)、「配慮」因子($\beta=-.128, n.s.$)、「擁護」因子($\beta=-.171, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.3)。

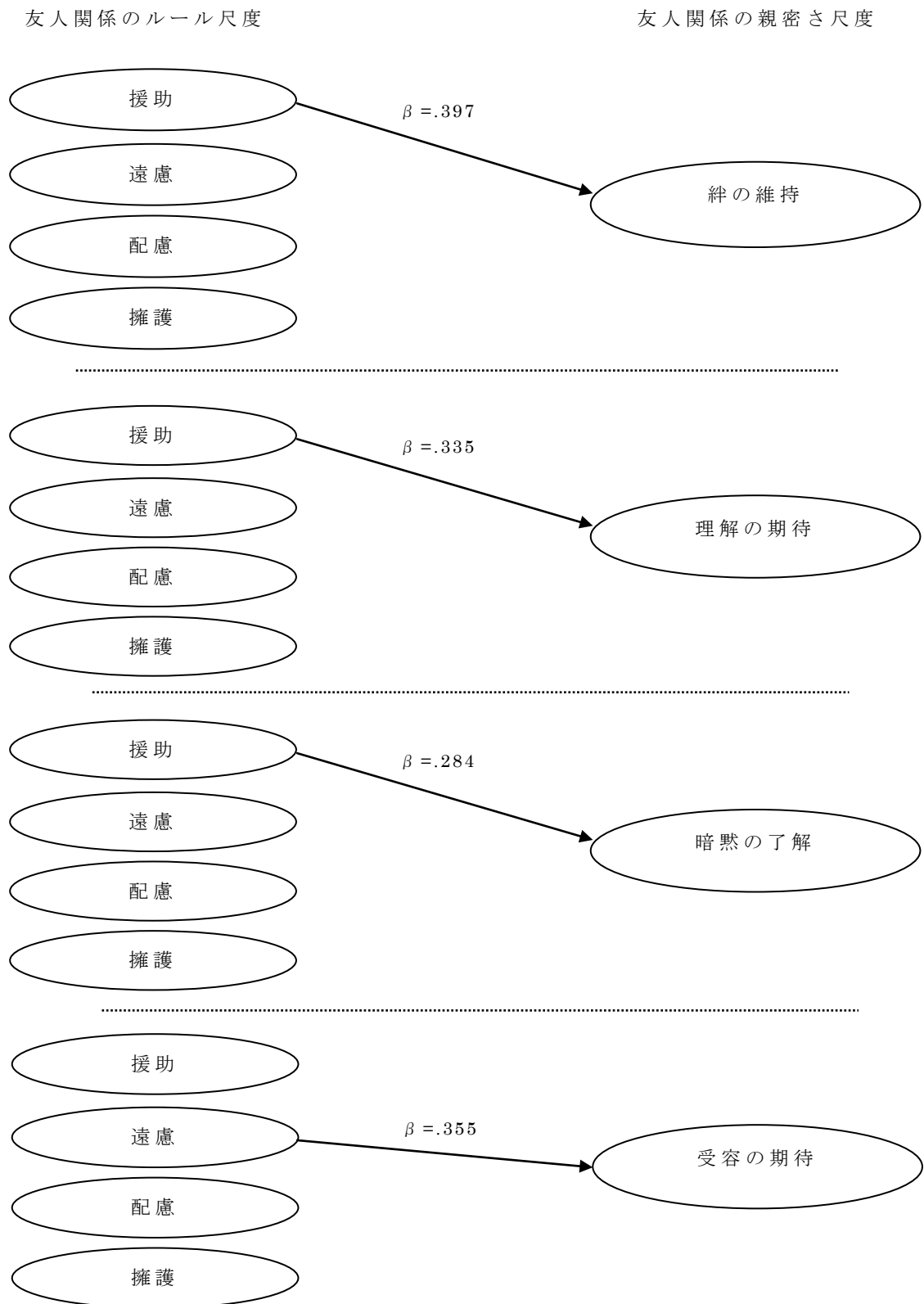


Fig.3 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(親友に対する男性の場合)

(2)友人に対する男性の場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子($R^2=.240$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .527(p<.001)$ 、「線引き」因子は $\beta = -.189(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「非自己開示」因子($\beta = .096, n.s.$)、「衝突回避」因子($\beta = .010, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.4)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.113$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .360(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「非自己開示」因子($\beta = -.008, n.s.$)、「衝突回避」因子($\beta = -.049, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.075, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.4)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.107$)に対して友人関係のルール尺度「非自己開示」因子は $\beta = .191(p<.05)$ 、「衝突回避」因子は $\beta = -.212(p<.05)$ 、「線引き」因子は $\beta = -.207(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「思いやり」因子は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった($\beta = .104, n.s.$, Fig.4)。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子($R^2=.392$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .652(p<.001)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「非自己開示」因子($\beta = .029, n.s.$)、「衝突回避」因子($\beta = -.027, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.036, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.4)。

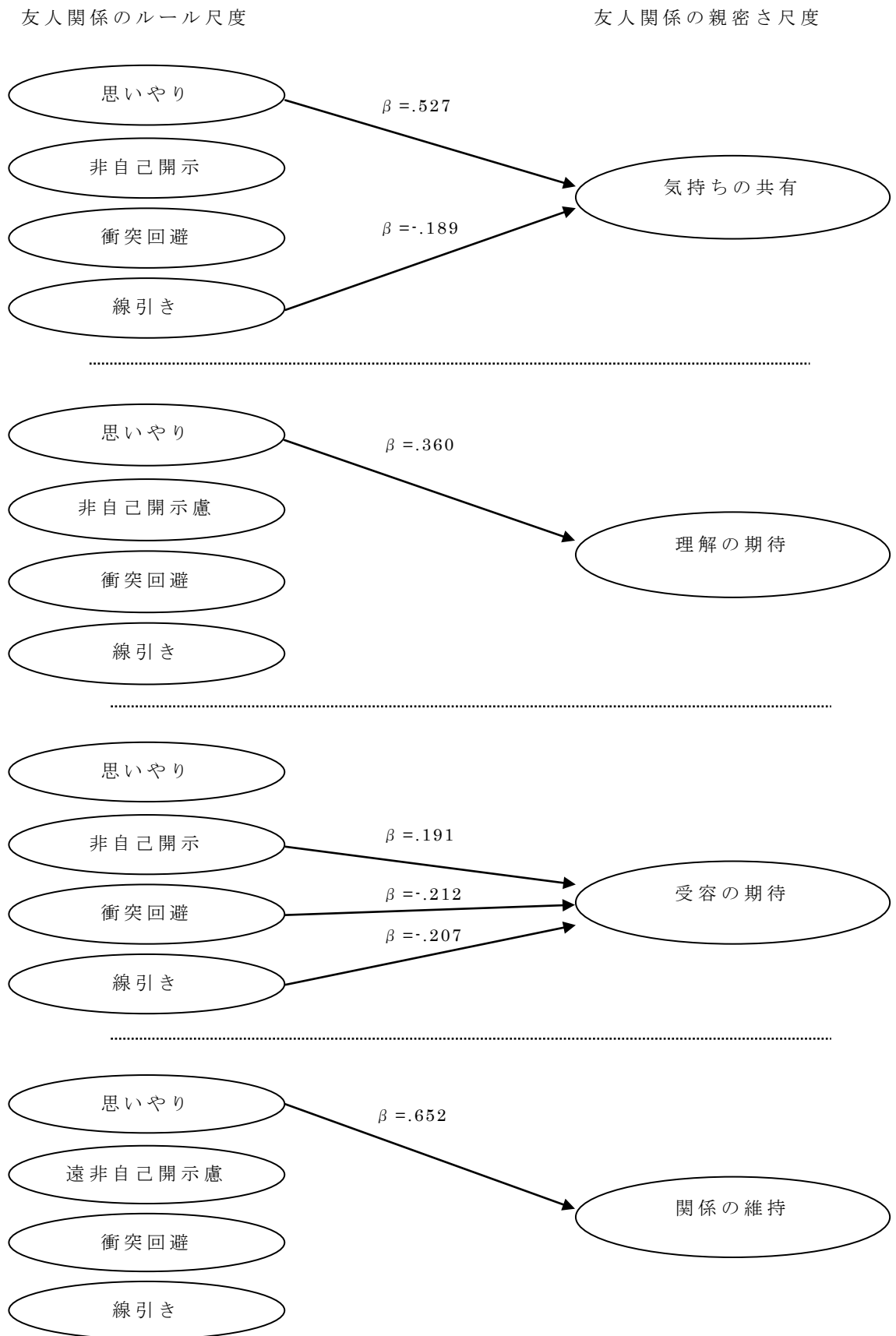


Fig.4 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(友人に対する男性の場合)

(3)親友に対する女性の場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子($R^2=.354$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.355(p<.001)$,「配慮」因子は $\beta=.308(p<.001)$ であり,影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.030, n.s.$),「擁護」因子($\beta=-.116, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.5)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.098$)に対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.293(p<.01)$ であり,影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=-.049, n.s.$),「配慮」因子($\beta=-.018, n.s.$),「擁護」因子($\beta=.051, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.5)。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子($R^2=.128$)であり,これに対して友人関係のルール尺度「援助」因子は $\beta=.326(p<.001)$ であり,影響が確認できた。友人関係のルール尺度「遠慮」因子($\beta=.012, n.s.$),「配慮」因子($\beta=.057, n.s.$),「擁護」因子($\beta=-.117, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.5)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.135$)に対して友人関係のルール尺度「遠慮」因子は $\beta=.203(p<.01)$,「配慮」因子は $\beta=-.274(p<.01)$ であり,影響が確認できた。友人関係のルール尺度「援助」因子($\beta=-.043, n.s.$),「擁護」因子($\beta=-.004, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.5)。

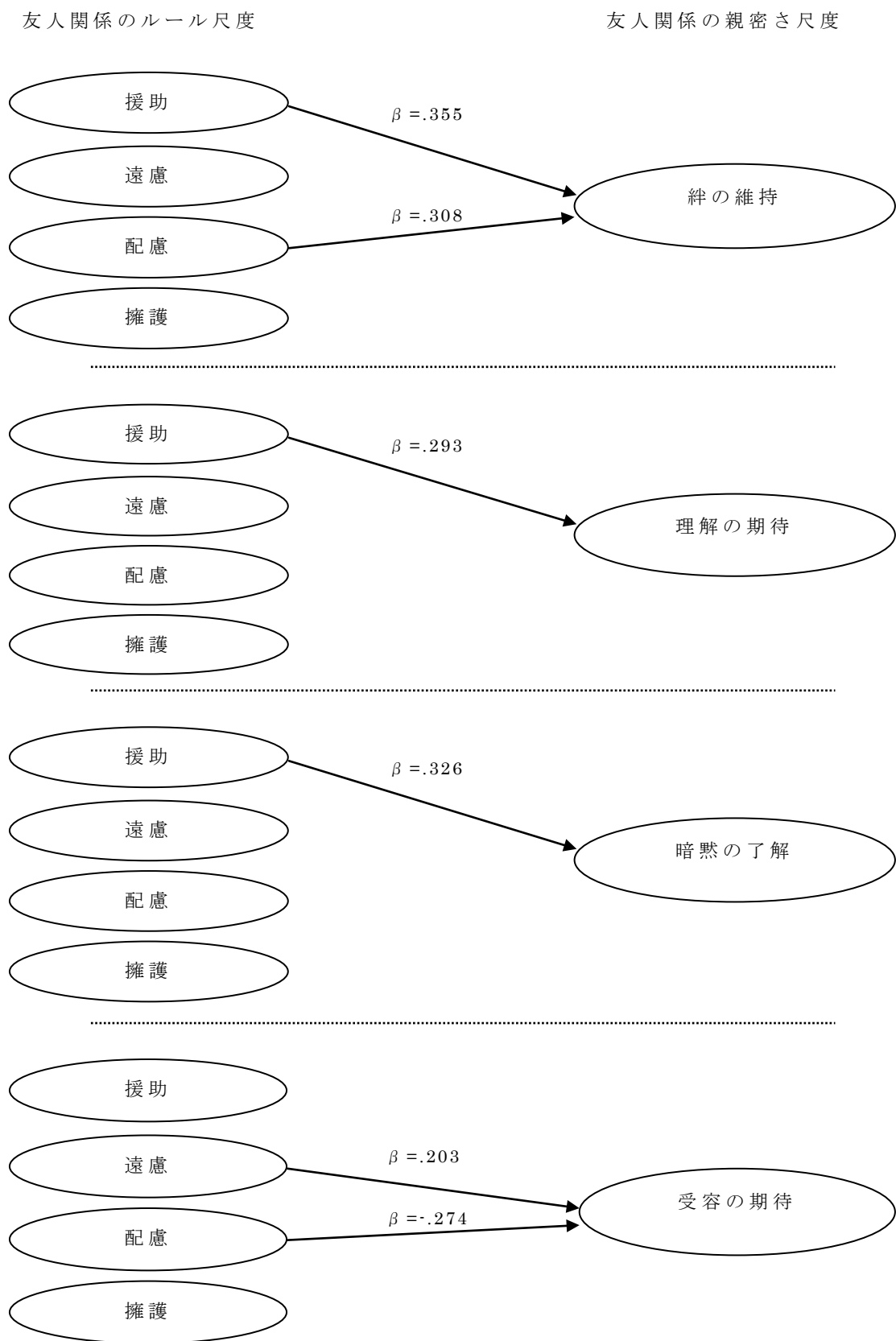


Fig.5 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(親友に対する女性の場合)

(4)友人に対する女性の場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子($R^2=.164$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .434(p<.001)$ 、「線引き」因子は $\beta = -.183(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「非自己開示」因子($\beta = -.036, n.s.$)、「衝突回避」因子($\beta = -.090, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.6)。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子($R^2=.192$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .412(p<.001)$ 、「非自己開示」因子は $\beta = -.169(p<.01)$ 、「線引き」因子は $\beta = -.170(p<.05)$ であり、影響が確認できた。友人関係の親密さ尺度「衝突回避」因子は友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対する影響を確認できなかった($\beta = -.082, n.s.$, Fig.6)。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子($R^2=.068$)に対して友人関係のルール尺度「非自己開示」因子は $\beta = .219(p<.01)$ 、「衝突回避」因子は $\beta = -.213(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「思いやり」因子($\beta = .102, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.021, n.s.$)は友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.6)。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子($R^2=.229$)に対して友人関係のルール尺度「思いやり」因子は $\beta = .396(p<.001)$ 、「非自己開示」因子は $\beta = -.211(p<.01)$ であり、影響が確認できた。友人関係のルール尺度「衝突回避」因子($\beta = .073, n.s.$)、「線引き」因子($\beta = -.061, n.s.$)は友人関係の友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対する影響を確認できなかった(Fig.6)。

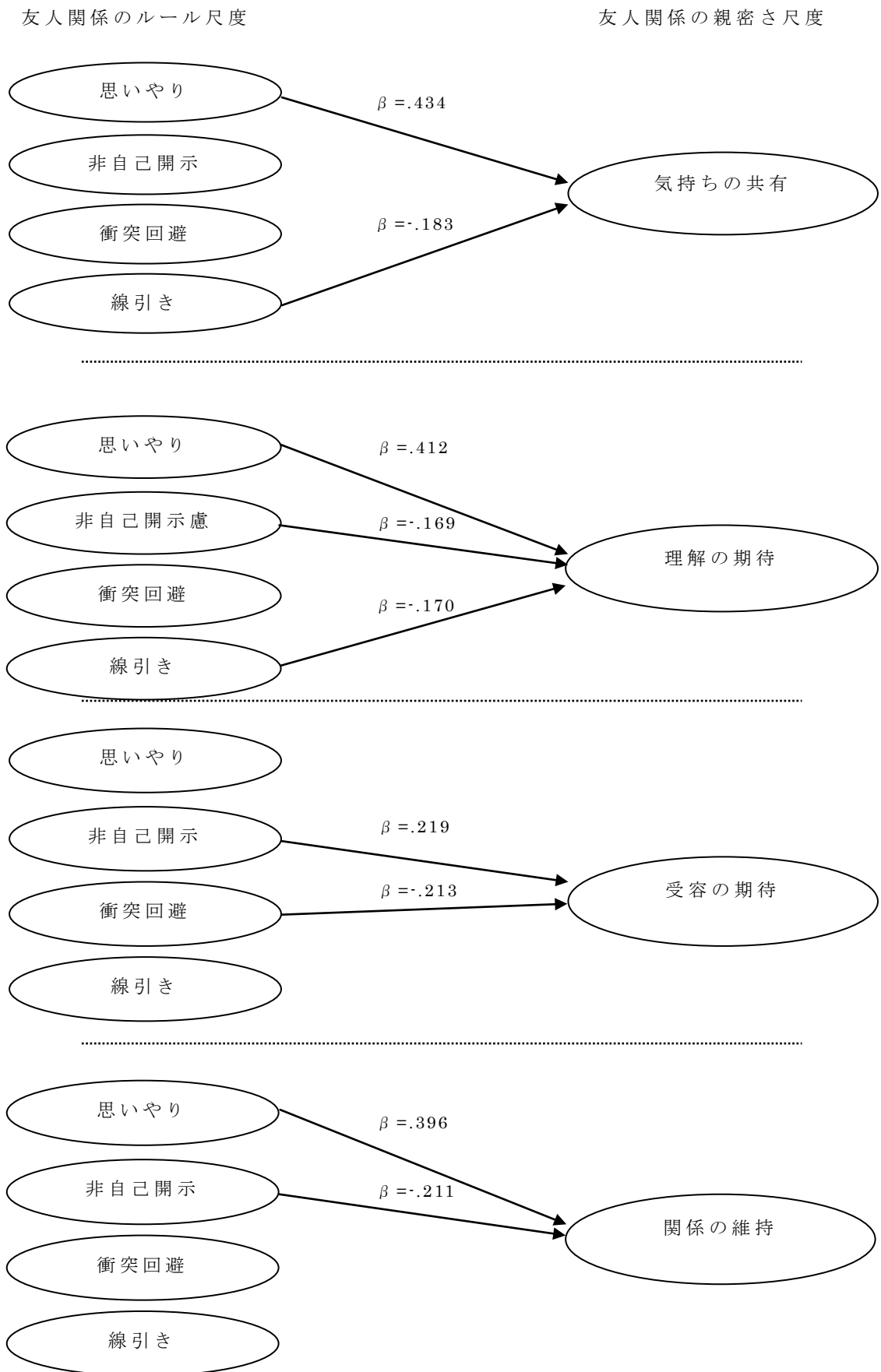


Fig.6 友人関係のルールが友人関係の親密さに及ぼす影響(友人に対する女性の場合)

第 4 章 考察

1. 各尺度の因子分析

(1) 友人関係の親密さ尺度の因子について

親友に対する親密さについては、因子分析の結果、「絆の維持」因子、「理解の期待」因子、「暗黙の了解」因子、「受容の期待」因子の 4 つから構成されていることが示された。友人に対する親密さについての因子分析の結果は、「気持ちの共有」因子、「理解の期待」因子、「受容の期待」因子、「関係の維持」因子の 4 つから構成されていることが示された。親友に対する場合と友人に対する場合では因子が異なるものもあり、親友と友人では親密さが異なると考えられる。

親友、友人両方に共通する因子としては、「理解の期待」因子、「受容の期待」因子であり、このことから、友人、親友に関係なく理解や受け入れを必要とすると考えられる。

親友、友人で異なる因子としては、親友に対する場合では「絆の維持」因子、友人に対する場合では「関係の維持」因子と、どちらも関係性を維持するような内容ではあるものの、親友に対する場合の方がより内面的な関係性であることが考えられる。

なお、「受容の期待」因子を構成する項目については、友人関係の親密さ尺度作成の参考とした親子関係の親密さ尺度(小高, 1998)では、「甘え」因子の中にすべて含まれていた。

(2) 友人関係のルール尺度の因子について

親友についてのルールの因子分析の結果、「援助」因子、「遠慮」因子、「配慮」因子、「擁護」因子の 4 つから構成されていることが示された。友人についてのルールでは、因子分析の結果、「思いやり」因子、「非自己開示」因子、「衝突回避」因子、「線引き」因子の 4 つから構成されていることが示された。親友に対する場合と友人に対する場合では因子が異なり、親友と友人ではルールが異なると考えられる。

親友についてのルールでは、「援助」因子から、相手のために行動し、「遠慮」因子から、相手に進んで自己開示や関わりを控え、「配慮」因子から、相手に気遣いを示し、「擁護」因子から、相手の立場が悪くならないようにするようなルールがあると考えられる。

友人についてのルールでは、「思いやり」因子から、相手へ寄り添い、気配りをし、「非自己開示」因子、「衝突回避」因子、「線引き」因子から、相手との距離を図るようなルールがあると考えられる。

友人、親友とでは因子は違うものの、親友に対する場合では「援助」因子、友人に対する場合では「思いやり」因子のように、相手への気配りを考える点、親友に対する場合では「遠慮」因子、「配慮」因子、友人に対する場合では「非

自己開示」因子、「衝突回避」因子、「線引き」因子のように、いずれも距離を考えようとする点は共通すると考えられる。

2.各得点の差の検定

(1)親友と友人での友人関係の親密さ得点の差異

親友と友人での親密さの差については、仮説のとおり、友人よりも親友の方が得点の差が有意に高く、友人よりも親友の方が親密さが高いことが考えられる。

(2)親友の有無での親密さ，ルール of 差異

親友の有無での親密さ，ルールには有意な差は確認できず，親友を持たない関係の築き方をするものはいるが，そのことが親密さやルールに影響はないと考えられる。

(3)親密さ，ルール of 性による差異

親密さ of 性差については，友人関係の親密さ尺度合計得点による検定の結果，親友に対する場合，友人に対する場合 of どちらについても，男性より女性の方が有意に高く，男性よりも女性の方が友人関係における親密さが高いと考えられる。

ルール of 性差では，親友に対する場合は男性よりも女性の方が有意に尺度合計得点が高く，友人に対する場合は性差は有意ではなく，女性はより親密な友人関係を築く際にルールを強く守ろうとすると考えられる。

友人関係において，女性は相手が友人，親友に関わらず親密な関係を築こうとすると考えられる。ルールに関しては，より親密な関係性になるほどルールを強く守ろうとすると考えられる。

(4)性差での各因子における親密さ，ルール of 差異

友人関係の親密さ尺度(親友) of 各因子 of 得点についてt検定を行ったところ，「絆の維持」因子，「暗黙の了解」因子，「理解の期待」因子では，男性よりも女性の方が有意に高い得点を確認でき，「受容の期待」因子については，差は確認できなかった。親友に対しては，男性よりも女性の方が，絆を維持しようとし，理解を求める気持ちが強いと考えられる。「受容の期待」因子には得点差がなかったことから，親友に対しては受け入れられたいという気持ちに性差はないと考えられる。

友人関係の親密さ尺度(友人) of 各因子 of 得点についてt検定を行ったところ，「気持ちの共有」因子，「関係の維持」因子では，男性よりも女性の方が有意に高い得点を確認でき，「理解の期待」因子，「受容の期待」因子については，差は確認できなかった。友人に対しては，男性よりも女性の方が，気持ちを共有していきたい，関係を維持しようとする気持ちが強いと考えられる。「理解の期待」因子，「受容の期待」因子には得点差がなかったことから，友人に対しては理解

されたい、受け入れられたいという気持ちに性差はないと考えられる。

親友に対する場合、友人に対する場合のどちらも「受容の期待」因子に性差がなかったことから、どちらに対しても、男女とも、相手に受け入れられたいという気持ちは共通だと考えられる。

3. 友人関係の親密さに対するルール要因の重回帰分析

(1) 親友に対する場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.1), 「援助」因子>「配慮」因子>「遠慮」因子の順に影響が確認でき、「遠慮」因子は負の影響が確認された。「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり、相手のために行動すること、気遣いをする事は、絆の維持につながり、非自己開示的であったり、相手への深入りを避けることは絆の維持の妨げとなると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.1), 「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子、「配慮」因子、「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり、相手のために行動することは理解されたいという気持ちに関係すると考えられる。「遠慮」や「配慮」や「擁護」の因子は、確かに「理解の期待」とは関係が薄いと思われる。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.1), 「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子、「配慮」因子、「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり、相手のために行動することで、何も表現せずとも理解をしあえる関係を促すと考えられる。この関係の構築に遠慮や配慮が関係しないのは当然であろう。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.1), 「遠慮」因子>「配慮」因子の順に影響が確認でき、「配慮」因子は負の影響が確認された。「援助」因子、「擁護」因子は影響が確認できなかった。非自己開示的であり、気遣いをしないことが、受け入れられたい気持ちに関係するという結果であった。

友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して、友人関係のルール尺度の「援助」因子が影響を与えることから、進んで相手と関わり、相手のために行動することは、親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては、非自己開示的であったり、気遣いをしない傾向と、受け入れられたい気持ちが関係するという矛盾があり、両者に共通の心理的背景として相手に対する甘えがあるのではないかと考えられる。

(2) 友人に対する場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.2), 「思いやり」因子>「線引き」

因子の順に影響が確認でき、「線引き」因子は負の影響が確認された。「非自己開示」因子、「衝突回避」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い、線引きをしないことで相手の内面に触れ、気持ちの共有が促されると考えられる。「非自己開示」と「衝突回避」、「線引き」因子はいずれも、友達に深入りせずある程度距離をとることで、いずれも「気持ちの共有」とは相いれないと思われる。しかし、負の影響があったのは「線引き」因子のみであった。「線引き」因子に含まれるような「プライバシーの尊重」まではしない方が「気持ちの共有」に至るということになる。「プライバシーの尊重」が互いのやり取りでプライバシーに踏み込まないことなのか、友達のプライバシーを第三者には守ろうとすることなのか、このルール項目では判然としないが、この結果から前者のこととして受け取られた可能性が高いと思われる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.2),「思いやり」因子>「線引き」因子>「非自己開示」因子の順に影響が確認でき、「線引き」因子、「非自己開示」因子は負の影響が確認された。「衝突回避」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い、相手と距離をとらないルールに従うことが、相手からの理解を期待する気持ちに関係していると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.2),「衝突回避」因子>「非自己開示」因子の順に影響が確認でき、「衝突回避」因子は負の影響が確認された。「思いやり」因子、「線引き」因子は影響が確認できなかった。「思いやり」が関係しない一方、自己開示をせずに相手と衝突も辞さないことが、何も言わなくても自分を受け入れられたいという気持ちに関係があるということになる。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.2),「思いやり」因子>「非自己開示」因子の順に影響が確認できた。「非自己開示」因子は負の影響が確認された。相手に寄り添い、相手のことを考え、自己開示することで関係の維持が促されるというもっともな結果であると考えられる。

以上の通り、友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して、友人関係のルール尺度の「思いやり」因子が影響を与えることから、相手に寄り添う気持ちを示すことが、親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては、自己開示はしないが、相手に意見することで受け入れられたい気持ちが高まるという矛盾があり、親友の場合と同様甘えが介在するのではないかと考えられる。

(3)親友に対する場合と友人に対する場合の比較

友人に対する場合と親友に対する場合のどちらに関しても、友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して、友人関係のルール尺度の「援助」や「思いやり」の因子のように、相手のために思い、行動することが友人関係の親密さを高めると考えられる。他方、「受容の期待」因子に関しては、友

人と親友に共通して、自分では開示や行動をしないが、相手に受け入れを求めるという矛盾がみられ、甘えが介在するのではないかと考えられる。

4.男女別での重回帰分析

(1)親友に対する男性の場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.3),「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり,相手のために行動することで,絆の維持につながると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.3),「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり,相手のために行動することで,理解されたいという気持ちを促すと考えられる。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.3),「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり,相手のために行動することで,黙っていてもわかりあえる関係を促すと考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.3),「遠慮」因子は影響が確認できた。「援助」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。自己開示せず,相手に深入りしないことが,自分からは何も表現しなくても受け入れられたいという気持ちと関係があることになった。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子以外の因子に対して,友人関係のルール尺度の「援助」因子が影響を与えることから,進んで相手と関わり,相手のために行動することは,親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては,非自己開示的で相手に深入りしないが,受け入れられたい気持ちが高まるという矛盾があり,背景に甘えの心理があるのではないかと考えられる。

(2)友人に対する男性の場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.4),「思いやり」因子>「線引き」因子の順に影響が確認でき,「線引き」因子は負の影響が確認された。非自己開示」因子,「衝突回避」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い,線引きをしないことで相手の内面に触れ,気持ちの共有が促されると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.4),「思いやり」因子は影響が確認

できた。「非自己開示」因子、「衝突回避」因子、「線引き」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い、相手のことを考えることで、理解されたいという気持ちが高まると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.4),「衝突回避」因子>「線引き」因子>「非自己開示」因子の順に影響が確認でき、「衝突回避」因子、「線引き」因子は負の影響が確認された。「思いやり」因子は影響が確認できなかった。自己開示をせずに相手と意見を交わし、線引きをしない態度が、何も言わなくても、どのような自分であっても受け入れられたいという気持ちと関係があった。また、線引きせずに相手に受け止めてもらいたいと感じることは、女性の友人関係には見られない特徴であった。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.4),「思いやり」因子は影響が確認できた。「非自己開示」因子、「衝突回避」因子、「線引き」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い、相手のことを考えることで、関係の維持が促されることが考えられる。

友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して、友人関係のルール尺度の「思いやり」因子が影響を与えることから、相手に寄り添う気持ちを示すことが、親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては、自己開示せず、相手に意見し、線引きもしないことで、受け入れられたい気持ちが高まることとなり、影響が確認できなかった「思いやり」因子と逆ともいえる行動であり、甘えが介在するのではないかと考えられる。

(3)男性における親友に対する場合と友人に対する場合の比較

友人に対する場合と親友に対する場合のどちらに関しても、友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して、友人関係のルール尺度の「援助」「思いやり」と、相手のためを思うこと、行動することが友人関係の親密さを高めると考えられる。また、「受容の期待」因子に関しても、共通して矛盾が見られ、自分からは開示や行動しないが、相手に受け入れを求める点から甘えの心理ではないかと考えられる。友人に対する場合には「受容の期待」因子に対して「線引き」因子は負の影響があり、線引きせずに相手に受け止めてもらいたいと感じることが男性の友人関係の特徴であると考えられる。

(4)親友に対する女性の場合

友人関係の親密さ尺度「絆の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.5),「援助」因子>「配慮」因子の順に影響が確認できた。「遠慮」因子、「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり、相手のために行動すること、相手に気遣いを示すことが絆の維持につながると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の

各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.5),「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり,相手のために行動することで,理解されたいという気持ちを促すと考えられる。

友人関係の親密さ尺度「暗黙の了解」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.5),「援助」因子は影響が確認できた。「遠慮」因子,「配慮」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。進んで相手と関わり,相手のために行動することで,より深い理解を促すと考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.5),「配慮」因子>「遠慮」因子の順に影響が確認でき,「配慮」因子は負の影響が確認された。「援助」因子,「擁護」因子は影響が確認できなかった。自己開示せず,相手に深入りしないことで,自分からは何も表現しないことが受け入れられたいという気持ちと関係すると考えられる。

以上,友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子以外の因子に対して,友人関係のルール尺度の「援助」因子が影響を与えることから,進んで相手と関わり,相手のために行動することは,親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては,相手に気遣い,自己開示をせず,相手に深入りしないことが,どのような自分であっても受け入れられたいという気持ちに関係していると考えられる。

(5)友人に対する女性の場合

友人関係の親密さ尺度「気持ちの共有」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.6),「思いやり」因子>「線引き」因子の順に影響が確認でき,「線引き」因子は負の影響が確認された。相手に寄り添い,線引きをしないことで相手の内面に触れ,気持ちの共有が促されると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「理解の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.6),「思いやり」因子<「線引き」因子<「非自己開示」因子の順に影響が確認でき,「非自己開示」因子,「線引き」因子は負の影響が確認された。「衝突回避」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い,線引きをしないことで相手の内面に触れ,気持ちの共有が促されると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.6),「非自己開示」因子>「衝突回避」因子の順に影響が確認でき,「衝突回避」因子は負の影響が確認された。「思いやり」因子,「線引き」因子は影響が確認できなかった。自己開示をせずに相手と意見を交わすことと,何も言わなくても自分を受け入れられたいという気持ちとに関係がみられた。

友人関係の親密さ尺度「関係の維持」因子に対して友人関係のルール尺度の各因子が及ぼす影響を確認したところ(Fig.6),「思いやり」因子>「非自己開示」因子の順に影響が確認でき,「非自己開示」因子は負の影響が確認された。「衝突回避」因子,「線引き」因子は影響が確認できなかった。相手に寄り添い,自己開示することで関係の維持が促されると考えられる。

以上,友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して,友人関係のルール尺度の「思いやり」因子が影響を与えることから,相手に寄り添う気持ちを示すことが,親密さを高めると考えられる。「受容の期待」因子に関しては,自己開示せず,相手に意見し,線引きもしない態度の場合,受け入れられたい気持ちが高まることとなり,影響が確認できなかった「思いやり」因子と逆ともいえる行動であり,背景に甘えの心理があるのではないかと考えられる。

(6) 女性における親友に対する場合と友人に対する場合の比較

友人に対する場合と親友に対する場合のどちらに関しても,友人関係の親密さ尺度の「受容の期待」因子以外の因子に対して,友人関係のルール尺度の「援助」「思いやり」と,相手のためを思うこと,行動することが友人関係の親密さを高め,自己開示することも親密さを高めると考えられる。また,「受容の期待」因子に関しては,共通して矛盾が見られ,相手に任せるような点から甘えではないかと考えられる。

5.総合考察

友人関係の親密さは,友人より親友の方が当然高かったが,それだけでなく,親密さの因子も異なり,親友と友人とでは異なる親密さが存在する。「受容の期待」因子に関しては,親友,友人共通の因子であり,受け入れられたいという気持ちを友人関係において持つと考えられる。また,男性よりも女性の方が親密さが高い点は先行研究と一致した。

友人関係のルールは,親友と友人では因子が異なることから,異なるルールで統制されていると考えられる。また,男性よりも女性の方が得点が高いことから,男性よりも女性の方がルールを強く守ろうとすると考えられる。

友人関係の親密さに友人関係のルールが及ぼす影響として,ほとんどの親密さの因子に対して,相手への気遣いを示すこと,相手のために行動すること,自己開示し,線引きをしないことなど相手のことを考えての積極的な関わりが親密さを高めると考えられる。

友人関係の親密さ尺度「受容の期待」因子に関しては,相手へ気遣いをしない,自己開示しない,相手へ深入りしないことが,受け入れられたいという気持ちに関係があると考えられる。その他の友人関係の親密さ因子に対するルールでは,相手のために気遣いや行動するルールが多くみられたが,「受容の期待」因子に対するルールでは,相手のために気遣いや行動しないという特徴がみられた。この特徴については,本研究においては明言できないが,自分からは何

もせず、相手から受け入れを期待するような点から甘えと捉えられるのではないかと考える。甘えと友人関係については、良好な友人関係の構築に、甘えが役立つことが明らかにされている(玉瀬・富平, 2007)。なお、「受容の期待」因子に対して、自己開示しないことが影響していたが、他者との適度な心理的距離を巡る葛藤である、ヤマアラシジレンマのような複雑な感情を抱いている可能性も考えられる。

6. 今後の課題

本研究で作成した友人関係のルール尺度は、内的整合性を検討したところ、 α 係数の数値が低く、信頼性に欠ける因子があった。これに関しては、参考にした質問紙がイギリスで作成されたものであり、文化の違いを考慮する必要があったといえる。今後はインタビュー調査などで日本における若者の人間関係のルールを探り、日本版の尺度を開発する必要があるのではないかとと思われる。

謝辞

本論文を執筆するに当たり、多くの方に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

本研究に際して、様々なご指導を頂きました、本学鎌田次郎先生、冶部哲也先生に深謝いたします。また、調査の実施にあたりご協力いただきました、三重大大学瀬戸美奈子先生、講義時間を提供していただきました本学相谷登先生、小口将典先生、永田俊代先生、松宮満先生に厚く御礼申し上げます。日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた大学院生の皆様、アンケート調査を快く引き受けてくださった学生の皆様に感謝いたします。

文献

- 飛田操 (2010) 第6章 第2節 対人関係の発展と崩壊 相川充・高井次郎(編著)
コミュニケーションと対人関係 展望 現代の社会心理学2 誠信書房
- 榎本淳子 (2003) 青年期の友人関係の発達的变化—友人関係における活動・感情・欲求と適応— 風間書房
- 金田一京助・金田一春彦・見坊豪紀・柴田武・山田忠雄 (1974) 新明解国語辞典
第二版 三省堂
- 藤田文 (1997) 青年期における友人関係のルール適用 大分県立芸術文化短期
大学研究紀要 第35巻 155-165
- 畠山寛 (2003) 青年期の友人関係のルールに関する研究—親友と友人に関して
— 鳥取短期大学研究紀要 第48号 49-57
- 星名由美 友人関係における親密性尺度作成の試み 日本青年心理学会大会発表
論文集 (2000) 8, 40-41
- 今津孝次郎 (2007) 増補いじめの問題の発生・展開と今後の課題—25年を総括
する— 黎明書房
- 庄司一子 (2003) 第3章 いじめの背景要因 真仁田昭・小玉正博・沢崎達夫(編
著) いじめ 子どもをとりまく問題と教育第6巻 開隆堂出版株式会社
- Michael, Argyle・Monika, Henderson (1985) The Anatomy Relationships
and The Rules and Skills to Manage Them Successfully (吉森護 (編訳)
1992 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Michael Argyle・Monika Henderson (1984) THE RULES OF FRIENDSHIP
Journal of Social and Personal Relationships, Vol.1, 211-37
- Richard Nelson Jones (1990) HUMAN RELATIONSHIP SKILLS : Training and
Self-help (相川充 (1993) 思いやりの人間関係スキル—一人でできるト
レーニング— 誠信書房)
- 落合良行・伊藤裕子・齋藤誠一 (1993) 青年の心理学 ベーシック現代心理学 4
有斐閣ブックス
- 白井利明 (1987) 3章 青年期のからだところろ 鈴木康平・松田惺(編) 現代青
年心理学新版 有斐閣ブックス
- 高井範子 (2008) 青年期における人間関係の悩みに関する検討 太成学院大学人
間学部 太成学院大学紀要 10, 85-95
- 玉瀬 耕治・富平 美智子 (2007) 大学生の「甘え」と友人関係 帝塚山大学心
理福祉学部紀要 3, 59-72
- 和田実・林文俊 (2008) 大学生の同性友人関係—その変化と友人との親密度と
の関連— 名城大学総合研究所総合学術研究論文集 10, 89-101
- 渡辺舞 (2010) 大学生における友人関係の親密化過程に関する研究 : 回想的

調査面接による探索的検討 北星学園大学大学院論集 1, 71-83
山本利和 (1999) 発達心理学 現代心理学シリーズ 7 培風館

吉岡和子・高橋紀子 (2010) 大学生の友人関係論—友だちづくりのヒント—
ナカニシヤ出版

その相手は名によって呼ぶべきだ	①②③④⑤
その相手には個人的な気持ちとは打ち明けるべきでない	①②③④⑤
その相手に個人的なアドバイスを頼むべきでない	①②③④⑤
公衆の面前でその相手を批判すべきでない	①②③④⑤
その相手がいないとき、代わりにその相手を擁護するほうが良い	①②③④⑤
その相手と秘密を話し合わないほうが良い	①②③④⑤
その相手と性的な関係をもつべきでない	①②③④⑤
たとえ、どれほど小さい親切や褒め言葉であっても、その相手にお返しをするように努める	①②③④⑤
その相手に冗談やかからかいをすべきでない	①②③④⑤
その相手と成功の知らせを分かち合う	①②③④⑤
その相手のプライバシーは尊重すべきだ	①②③④⑤
会話をしているときは、その相手の目をみるべきだ	①②③④⑤
その相手の精神的な支えになる	①②③④⑤
その相手に小言を言うべきでない	①②③④⑤
その相手が病気のときは、世話をすべきだ	①②③④⑤
お互いの友人に対して寛容であるべきだ	①②③④⑤
公衆の前でその相手と言い争いをすべきでない	①②③④⑤
お互いに信用し、信頼するべきだ	①②③④⑤
必要なときは、その相手を進んで手助けすべきだ	①②③④⑤
その相手の人間関係を批判したり、嫉妬すべきでない	①②③④⑤
一緒にいる間は、その相手が楽しめるように努める	①②③④⑤

0	0	0
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9

V

あなたは友人(同性)だと感じる相手はいますか。
 次のあてはまる選択肢を塗りつぶしてください。

はい いいえ
 ① ②

はい
 と答えた人はVIへ
 いいえ
 と答えた人は、
 以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

VI

友人だと感じる相手のイニシャルを1文字記入してください。

VII

VIに記入した友人のことをを思い浮かべながら、次の各項目のそれぞれについて、あなたにどの程度当てはまるかを考え、該当する選択肢1つを塗りつぶしてください。

1	喜び、悲しみなどの感情をその相手と共有する	①②③④⑤
2	欠点も含めて、その相手は私のことを受け入れ許してくる	①②③④⑤
3	互いの欠点を率直に言える	①②③④⑤
4	その相手と心がつながっている	①②③④⑤
5	その相手を尊敬している	①②③④⑤
6	その相手と多くの時間を共有する	①②③④⑤
7	互いに刺激あって人間性を高めあう	①②③④⑤
8	その相手が落ち込んでいると私も落ち込む	①②③④⑤
9	互いに何も言わなくても、互いの気持ちを察している	①②③④⑤
10	その相手は、いちいち言わなくても私の気持ちをわかってくれる	①②③④⑤
11	その相手に頼りにされたい	①②③④⑤
12	その相手の敵は私の敵のような気がする	①②③④⑤
13	その相手は、私が何をしても最後はわかってくれる	①②③④⑤
14	その相手が考えていることがだいたいわかる	①②③④⑤
15	その相手が困っていたら、頼まれなくても積極的に助けようとする	①②③④⑤
16	私が何をしてもその相手は、最後は許してくれる	①②③④⑤
17	その相手に非難されると、とても気になる	①②③④⑤
18	嫌なことがあると、その相手にあたってしまう	①②③④⑤
19	すべてを言わないと、その相手がわかってくれない場合イライラする	①②③④⑤
20	その相手に向かって、直接批判的なことを言う	①②③④⑤

あど
まら
りそ
うそ
う思
わえ
なな
い
い
い
う
う

VIII

VIに記入した友人のことを思い浮かべながら、次の各項目のそれぞれについて、あなたにどの程度当てはまるかを考え、該当する選択肢1つを塗りつぶしてください。

1	その相手は名によって呼ぶべきだ	①②③④⑤
2	その相手には個人的な気持ちは打ち明けるときでない	①②③④⑤
3	その相手に個人的なアドバイスを頼むべきでない	①②③④⑤
4	公衆の面前でその相手を批判すべきでない	①②③④⑤
5	その相手がいけないとき、代わりにその相手を擁護するほうが良い	①②③④⑤
6	その相手と秘密を話し合わないほうが良い	①②③④⑤
7	その相手と性的な関係をもつべきでない	①②③④⑤
8	たとえ、どれほど小さい親切や褒め言葉であっても、その相手にお返しをするように努める	①②③④⑤
9	その相手に冗談やからかいをすべきでない	①②③④⑤
10	その相手と成功の知らせを分かち合う	①②③④⑤
11	その相手のプライバシーは尊重すべきだ	①②③④⑤
12	会話をしているときは、その相手の目をみるべきだ	①②③④⑤
13	その相手の精神的な支えになる	①②③④⑤
14	その相手に小言を言うべきでない	①②③④⑤
15	その相手が病気のときは、世話をすべきだ	①②③④⑤
16	お互いの友人に対して寛容であるべきだ	①②③④⑤
17	公衆の前でその相手と言い争いをすべきでない	①②③④⑤
18	お互いに恒用し、恒頼するべきだ	①②③④⑤
19	必要ときは、その相手を進んで手助けすべきだ	①②③④⑤
20	その相手の人間関係を批判したり、嫉妬すべきでない	①②③④⑤
21	一緒にいる間は、その相手が楽しめるように努める	①②③④⑤